



身近な町の話や出来事をご紹介します

たんぽぽ



給食センターを安田小が見学

4月から配食を開始している安来市給食センター（ハッピークック）を7月1日に安田小4年生等の児童15人が見学しました。同センターの2階には見学用の窓が設けられ、調理風景の見学ができ、多くの子どもたちが訪れています。

市内小学校の給食は自校式で、校内で調理されたものが机に並びます。ここでは一度に1,200人分もの給食が、大型の機器で調理されていきます。普段とは違った作業風景に児童たちは驚いた様子で見えていました。

清き水辺で光りのショー

ホテルの観賞地として知られる吉田地区で6月11日、「吉田ほたる祭り」が開催され、訪れた人たちは光を放ちながら乱舞するホテルを楽しみました。

会場となった吉田交流センター周辺では、家族連れらが訪れ、ホテルが川面を飛び舞う様子に「きれいだね」「すごい」と興味深く観賞。来場者は、暗闇に浮かぶ幻想的な光景をうっとり見つめていました。



▲交流センター前の吉田川で飛び舞うホテル

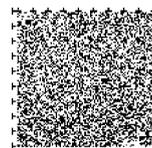
ゲーム?スポーツ?楽しむゴミ拾い

6月の環境月間に合わせて市内をきれいにする「クリーンアップ安来デー」が6月12日に開催され、141団体4,112人が参加しました。

このうち荒島地区健康推進協議会では、楽しみながら活動しようと「スポーツゴミ拾いウォーキング」を企画。3～5人がチームとなり、決められた範囲や一定のルールに従って拾い集めたゴミの量を競います。初めて参加した小学5年生の謝花陽菜しゃはなひなさんは、「友達2人と一緒に参加しました。みんなでたくさんゴミを拾って街をきれいにしたい」と話してくれました。



▲当日は10チーム37人が参加。心地よい汗をかきながら地元をきれいにしていきました。



芸能の神像に安来節の歌詞を奉納



▲奉納された額と摩多羅神坐像は、今秋にも一般公開される予定です。

「太古の光 今の世に照らし給えと祈りつつ 捧げ唄わん安来節」

国の重要文化財に指定され、芸能の神様と伝えられている清水寺の摩多羅神坐像に、安来節の歌詞が奉納されました。奉納したのは安来節家元四代目渡部お糸さん。

同像は昨年から京都国立博物館で修復され、今春、数カ月ぶりに清水寺に戻りました。4月には一般公開され、この時に家元が特別に作詞した唄を神像の前で披露しました。この歌詞を額装し今回、奉納したものです。

お糸さんは「奉納できたことで、いつまでも郷土の芸能安来節を守っていただけるように思います」と話していました。

日立金属株式会社安来工場及び同社冶金研究所が開発したマルエージング鋼の製造方法が、平成28年度全国発明表彰（公益社団法人発明協会主催）の特許庁長官賞を受賞しました。同表彰が始まった大正8年以降、島根県内企業では初の受賞となりました。

発明は、主に自動車の無段変速機（CVT）の金属ベルトに適用されるマルエージング鋼に使用され、疲労強度を低下させる原因となっていたチタン窒化物を微細化できる技術です。これによりベルトの耐久性が向上し、CVTの普及が促進され、燃費の向上やCO₂削減に大きく寄与しています。

快挙！日立金属が発明表彰



▲近藤市長に受賞報告を行った日立金属冶金研究所の所長・岸上一郎さん（左）と、原頭一郎さん（中）



3回に教わるどっておきの技

専門家の技や知恵を学びませんか。3回目となる「安来まちゼミ」が6月下旬から開催され、44店舗で48講座が提供されました。まちゼミとはお店の人の専門知識を少人数で学ぼうというもので、材料費以外の受講料は無料。分野は健康、食べる、ものづくり、体験するなどさまざまです。

市内のコーヒー専門店で開催されたまちゼミ「美味しい珈琲の入れ方」には5人が参加。コーヒーの木の話からはじまり、豆の特徴や産地など専門家ならではの話を聞きます。その後は、家庭にもあるドリップ式コーヒーの美味しい入れ方を伝授。豆の量の目安、お湯の温度と入れ方、豆の保存方法など、普段はなかなか聞くことのできない話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

